

事業概要 Outline

女性医師が活躍できる勤務環境づくりに取り組む医療機関を応援します。

近年医師国家試験の合格者に占める女性の割合は約3分の1となっています。特に産婦人科・小児科については20代の女性医師の割合が半数を上回っている現状です。仕事と家庭を両立したいと考える女性医師は、育児中もキャリアを中断せずなるべく早い時期に現場復帰したいと考えています。そのため、就業場所に保育施設などの環境が整っていることが勤務を続ける条件となっているものの、医療機関としては保育施設の運営にかかる費用負担が大きいことが課題です。

そこで、茨城県医師会女性医師就業支援事業（茨城県委託）では、子どもの急病時等で緊急的に職務の代行が難しい場合に、既存の院内保育施設と市町村ファミリーサポートセンターや民間ベビーシッター会社の派遣を組み合わせたオーダーメイドの子育て支援を実施できる院内体制の構築を支援します。

Point 1

取組みに係る費用の一部を助成します

茨城県では医師の子育てや働きやすい環境づくりを推進するため、仕事と家庭を両立できる働きやすい職場環境を整備している医療機関に対し、予算の範囲内において補助金を交付します。

茨城県働きやすい職場環境づくり事業補助金

茨城県保健福祉部医療人材課
医師確保担当
☎029-301-3191

Point 2

ファミリーサポートセンターやベビーシッター派遣を利用するメリット

子育て中はアクシデントの連続です。そのために常駐保育スタッフを雇用するのではなく、保育の依頼がある時だけ利用することができます。送迎や時間外、休日等の対応も可能です。

※ファミリーサポートセンターの活動内容は市町村によって異なります。
※ベビーシッター会社の対応地域は県医師会にお問い合わせください。

Point 3

院内保育支援コーディネーターの設置推進について

院内保育支援コーディネーターとなるスタッフに、職場内で両立支援の旗振り役を担っていただくことによって、院内外と連携して個別性の高い課題解決につなげることができます。職場においてワークライフバランスを推進することは、職員のやる気アップ、病院のイメージアップ等様々なメリットが考えられます。

概要図

育児中の医師が子どもの急な体調不良等でも勤務先の医療機関内で対応することができる保育支援体制の普及を推進します。



事業に関するお問い合わせ・ご相談は

茨城県医師会女性医師就業支援相談窓口

☎0120-107-467 TEL. 029-241-7467
FAX. 029-241-7468

月～金 9:00～17:00 ※土日祝及び年末年始はお休みです。

✉ i-dr.support@au.wakwak.com

🌐 <http://www.ibaraki.med.or.jp/women/>

医療機関の勤務環境改善に関するご相談は

茨城県医療勤務環境改善支援センター

TEL.029-303-5012 FAX.029-303-5116

月～金 9:00～17:00 ※土日祝及び年末年始はお休みです。

✉ iryokankyo08@pure.ocn.ne.jp

🌐 <http://www.ibaraki.med.or.jp/kinmu-kankyo/>

医療機関の皆様へ

茨城県医療勤務環境改善支援センター事業
女性医師が活躍できる育児支援



育児支援モデル医療機関事例紹介

多主体協働で育む医師の 育児支援プロジェクト

子育てと
医療を
両立したい

ママとなるべく
近くにいたい！

子育ての悩み、
誰に相談すれば
いいの？

子供が体調を
崩したら
どうしよう…

お迎え早く
来ないかな

一般社団法人茨城県医師会



茨城県医師会では女性医師が活躍できる 育児支援体制づくりに取り組む医療機関をサポートしています

市町村ファミリーサポートセンターと連携した病児保育支援 水戸協同病院モデル

プロジェクトの流れ Project

水戸協同病院は、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターとして多くの女性医師が重要な役割を担っており、ライフステージにおいては結婚、出産の時期を迎えています。そこで、あらゆるステージにおいても女性医師が活躍を続けることができるように、行政や県医師会、医療機関の多主体協働による育児支援プロジェクトを立ち上げました。

話し合い①



病児保育は
人材や費用…
課題が多い



話し合い②

ファミサポ委員会を設立



ファミサポ会員登録



保育ルーム設置



人材

- ファミリーサポートセンター
- 院内スタッフ

場所

院内の保育に適した場所

費用

事業補助金

今回利用したのは

- 保育ルームの改装、備品購入
- 保育料の病院負担分

※補助金についての問い合わせ先は裏表紙へ

うちの病院でもできる？



はい、オーダーメイド承ります。

女性医師が必要としている支援の聞き取り、院内支援体制の構築支援、地域の子育てサポーターとの連携支援等を相談員がお手伝いします。



保育ルームの1日



みんなの声 Our Voice

保育ルームに関わる方の声を集めました。

女性医師が自らのキャリア形成を含めて、能力を発揮し使命を全うできる環境を作ることは病院の責務です。水戸協同病院では約28名の女性医師が勤務し、出産育児をする方も多くなりました。女性医師の出産育児の身体的負担と心理的ストレス、職場復帰へのハードルを解消するために院内にファミリーサポート委員会を設置し育児室を整備しました。出産育児は女性だけの問題ではなく、家庭、職場の課題として取り組むべく名称を「ファミリーサポート」といたしました。



病院

渡邊宗章院長

水戸協同病院や茨城県医師会をはじめとする方々の深い御理解と積極的な取組により、本事業が実現したことに感謝申し上げます。女性医師の皆さんが仕事と子育てを両立しながら十分に能力を発揮し続けられる環境を整えることは、医師不足の解消とともに、市民が安心して医療を受けられる体制づくりに大きく寄与するものです。今後も、しっかりと連携し、ワーク・ライフ・バランスの促進と子育て環境の充実に努めてまいります。



水戸市

水戸市子ども課子育て支援係
倉川健一さん 鈴木理紗さん

我々の目標は、「優秀な女性医師の獲得」と「効果的な臨床現場への定着」です。復帰支援に求められるのは、プライベートライフと両立しながら、単なる労働力としてではなく、チームの一員として責任とやりがいを感じながら、キャリアを重ねていけるシステムの構築であると考えています。今後も保育ルームの積極的な稼働を目指し、各方面の協力をいただきながら、充実させていきたいです。



病院

医局長 皮膚科部長 田口詩路麻医師

私は出産後3ヵ月で職場に復帰しました。復帰にあたり、育児との両立はやはり不安がありました。しかし、医局の先生方のご理解や、同時期に院内保育ルームの立ち上げもあり、幸いにも現在までなんとか両立できています。ファミサポとの連携で、急な発熱などの時に安心して保育を頼める環境があり大変助かっています。



女性医師

感染症科
高村典子医師

勤務中は外来診療や検査など、抜けられない場面があります。そんな時に子供が病気になる、子供も周囲も自分もとても大変な思いをします。幸い当院にはファミリーサポートセンターや医師会と連携してできた保育ルームがあり、子供が病気になるでも仕事はそこで見て頂くことができます。お陰様で安心して仕事できています。



女性医師

神経内科
織田彰子医師



女性医師

両親が遠方在住であるため、仕事復帰するにあたり子供の体調不良の時のことが唯一の心配事でした。水戸には病児保育を行っている園は数か所のみで、同一疾患の数名の受け入れであるため、ファミサポの病児保育のことで知らず知らずファミサポに登録しました。協力会員の方は子育て経験のある方が多いため子供の扱いにも慣れていっしょにいますし、急なお願でも朝早くから受け入れて下さり、本当に感謝しています。また院内にファミサポルームがあるため、お昼休みに様子を伺いに行くこともでき安心できますし、車の運転ができない私は院内でみて頂けて助かっています。

消化器科 熊倉有里医師

お母さんから離れ心細い気持ちでいるお子さんが、少しでも安心して過ごせるように協力会員が愛情をかけてお預かりしています。病院スタッフの皆様に助けられ、保育ルームでの見守りに徐々に慣れてきたようです。利用者の皆様には保育ルームを活用していただき安心してご活躍いただければ幸いです。大切なお子さんを託されることの重みと責任を常に意識し協力会員の資質の向上に努め、困った時に頼れる存在でありたいと思っています。



水戸市

水戸ファミリーサポートセンター
アドバイザー 渡邊敏江さん 青木由紀子さん